

令和3年度始良・伊佐地区研究協力校「道德教育」 霧島市立横川中学校道德教育研修会

1 研究主題

(1) 地区研究主題

「考え、議論する道德」に向けた授業の在り方

(2) 会場校研究テーマ

自己を見つめ、他者と共によりよく生きる人間性豊かな生徒の育成

～「対話」を通して深め合う道德科の授業づくり～

2 研修報告

令和2年度道德教育指導者研修に参加した、霧島市立青葉小学校 黒岩正一教諭が報告しました。研修内容については、学習指導要領の内容を基に「特別の教科 道德の指導と評価」をどのように考え、指導していけばよいのかについての説明でした。



【研修報告の様子】

3 研究授業

横川中学校では、1年生と2年生の2学年で研究授業を行いました。

第1学年では、満枝宏一教諭と大當政文教諭が「席替え」の教材を使って授業を行いました。導入でアンケート結果を示しながら、教師側が適切な発問を投げかけることで生徒が「自分事」として捉え、物語の一員になったつもりで授業に参加しました。また、「ロイロノート」が効果的に活用され、中心発問に関わる生徒の回答をその場で集計し提示できる、まさにライブ感のある授業が展開されました。



【1年生の研究授業の様子】

第2学年では、東和孝教諭と河野隆啓教諭、池端恵教諭が「みんなでとんだ！」の教材を使って授業を行いました。展開では、「こころちず」を使って中心価値を捉えるだけでなく、他の諸価値とどのように関連しているか等を議論しました。また、「こころちず」を活用することで、グループにおける対話活動の活性化を図ることもでき、多面的・多角的な思考を促しました。



【2年生の研究授業の様子】

4 分科会

分科会では、1年生と2年生に分かれ、授業研究・研究協議を行いました。授業研究では、会場校研究テーマに沿って、「子どもの学びの姿を見取る」研究を実践されており、授業前の雰囲気づくりの一環として行っている『SGE』の具体や自身の思考の流れを確認するための思考ツールである「こころちず」の活用について意見交換を行いました。研究協議では、地区研究主題である「考え、議論する道徳」の充実に向けてグループで協議を行いました。

授業研究・研究協議の中で出された意見の主な内容は、以下のとおりです。

【1年生分科会】

- 「こころちず」の活用が、中心価値を多面的に捉えることができていた。
- ロイロノートの活用により、自分の考えに自信がもてたり、気になる意見を自ら確認したりすることができ、意見の共有に深まりが見られた。
- 価値葛藤をさせるための補助発問や揺さぶり発問の工夫をする必要がある。



【グループ協議の様子】

【2年生分科会】

- 「こころちず」の活用が、中心価値と他の価値項目との関わりを理解し、対話を通して多角的に考え、議論することができた。
- 作成した「こころちず」により、思考が可視化され子供たちの考えに深まりが見られた。
- 「こころちず」の作成や交流場面における少数意見をどう生かすかを深めていく必要がある。



【協議内容の発表】

【横川中の特徴的な取組】

多面的・多角的に考えるための「こころちず」の活用



こころちずとは、生徒が道徳的価値について多面的・多角的に考え、友達と意見を共有しながら自らの考えを深めたり広げたりするため独自に開発した思考ツールである。名前には、生徒の心に広がるさまざまな考えを地図のように可視化するという意味が込められている。